

【地域医療構想調整会議用】病院整備計画の概要書

- 1 ふれあい生協病院・埼玉県木曾呂1301, 1302-1, 1302-2, 1303, 1304, 1305, 1306

南部医療圏

- 2 医療生協さいたま生活協同組合 理事長 雪田 慎二 埼玉県川口市木曾呂1317

- 3 医療機関の現状（開院時）

病床数（2023年8月開院予定）

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
回復期	地域包括ケア病床	53	未	未
計		53		

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床

- 4 開設等の目的、整備方針、必要性

埼玉県の第7次地域保健医療計画において25床の病床計画が認可され、合計53床の地域包括ケア病床を有するふれあい生協病院は、現在、2023年8月の開院を目指して、2021年12月に着工後、2023年6月竣工に向けて順調に建設工事が進行しています。

南部医療圏は、高齢化を背景として2040年ごろまでに、医療需要は1.24倍、介護需要は1.63倍にも増加すると見込まれること、また高齢者の増加に伴い脳こうそく、肺炎、骨折、心不全などの疾患が増大し、がん患者も1.5倍に増加することが見込まれています。さらに高齢化を背景にして要介護状態や認知症を抱えて入院が長期化する症例が増加すると考えられます。南部医療圏は都内に近く、患者が流出している現状もあるが、今後は患者が高齢となり居住地域に通院する可能性はさらに増大すると考えます。

地域包括ケア時代の地域のニーズに応えるために、高齢者や要介護状態の患者を受け入れるとともに、急性期から在宅医療まで後方支援に対応できる病院の必要性があると考え地域包括ケア病床を有する新たな病院の開設を計画しました。埼玉県の「第7次埼玉県地域保健医療計画」にて25床の計画が認定され、埼玉協同病院からの急性期病床機能の転換を含めて53床を開設する計画となっています。

新たに開院するふれあい生協病院は、「地域包括ケア時代に輝く病院へ」をコンセプトに、高齢者の生活を支え、住み慣れた街で、人が人として尊重され、その人らしく生きることを支援することをめざしています。

これまで埼玉協同病院が担っていた外来機能の大半をふれあい生協病院に移すとも

病院整備計画申出者（法人名）

もに、在宅療養支援を行うため訪問診療、訪問看護・訪問リハビリの機能を併設します。

今般、埼玉県「病院整備計画の公募」により、この南部医療圏ではさらに244床が不足していることから、回復期機能の病床をさらに整備することで、このニーズに対応したいと考えます。

川口市北部地域では、訪問診療などを担う医療機関が不足しており、在宅医療をバックアップする空きベッドも充足していない状況があり、急変時の受け入れなどにも影響を生じるケースがあると思われます。また、(高度)急性期病院での治療を終え、スムーズに在宅医療に移行できるための支援を行う地域包括ケア病床をさらに整備する計画です。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 1 床

病床機能区分*1	医療機能*2	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期	在宅医療	一般	地域包括ケア病床	1
計	—	—	—	1

*1 高度急性期、急性期、回復期、慢性期のいずれかの病床機能を記載

*2 がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、在宅医療など整備する病床が担う医療機能を記載

(2) 整備する病床数の根拠

①病床数の考え方

2018年に埼玉県が「病院整備計画の公募」をした際には、下記の根拠により54床で申請をしました。その結果、認定されたのは25床であったため、埼玉協同病院からの病床移転により53床で開院する計画として準備を進めてきました。一方で、現在建設中の新たに整備する病院施設の構造上、病床数は54床まで運用可能になっています。そこで、今般の「病院整備計画の公募」を受けて、もともと整備を計画していた54床とさせて頂きたく、1床の増床を申請します。

当院で把握している待機患者やニーズとして受け切れていない患者

①救急車・地域の紹介の問い合わせで断っている件数が240～300件／年

(当院での受け入れ断りリスト、救急搬入シートより試算)

②法人内介護事業所からのレスパイトなどの潜在的ニーズは60件／年

*積算根拠：対象入院待機患者数(240+60)×平均在院日数25日÷365=20.5人／日

③本院でDPCⅡの期間を越え、回復期系病棟でのリハや退院支援が必要な患者31人／日

病院整備計画申出者（法人名）

④回復期リハ病棟で入院待機となっているが、別の病院へ入院となる患者 3件／月
 ①、②、③、④より開院年度は40人と予測しているが、その後の地域需要の伸び、本院の在院日数の短縮化などを考慮すると、2030年度あたりには51～54人／日となると考えています。

②-1 増床する病棟の概要

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
北2階病棟	54床	回復期		
	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 / 療養	入院基本料・特定入院料	地域包括ケア病棟入院料1	
診療科 内科・総合診療				
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)				
【増床前】		【増床後】 急性期病院から50.8床、ポストアキュートやレスパイト入院1.2床、1日患者数52床、稼働率96.2%想定 急性期病院は南部医療圏を中心に県南エリアの高度急性期病を連携先と考えている。		
医療(介護)連携見込み (※具体的に記入してください。)				
【増床前】		【増床後】 ○急性期紹介元：高度急性期病院；川口市立医療センター、済生会川口総合病院、戸田中央総合病院など ○在宅紹介元；法人内診療所、近隣在宅クリニック他 ○紹介先：法人内診療所、近隣在宅クリニックほか、居宅施設など		

②-2 既存病棟の概要

病棟名	病床数	病床機能報告区分
建設中	床	期
	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 / 療養	入院基本料・特定入院料
診療科		
診療実績 (※整備する病床に関連する実績を記述してください) 現在、2023年6月の竣工をめざして、建設中。		

③ 医療（介護）連携における課題・問題点と対応

これまで、埼玉協同病院では、回復期リハビリ病床(50床)および緩和ケア病床(24床)を中心に、県南エリアを中心に高度急性期、急性期病院からの後方転院を検討し積極的に受けてきました。また、一般病床においても、当院から高度急性期病院に紹介した患者の戻りを受けてきました。しかし、病床の稼働状況により受けきれない状況が発生していました。今後、回復期系の地域包括ケア病床を整備することで、よりスムーズに受入をしていきたいと考えています。

また、当法人は市内に老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護・介護などの在宅支援サービスを展開しているとともに、法人内事業所だけでなく、地域のケアマネ懇談会などを開催するなど、日常的に地域の介護事業所との連携強化を図り患者紹介なども積極的に行っています。そのため、入院早期から退院に向けた支援を開始しています。

埼玉協同病院では、入退院時支援は月平均230件（2018年度実績）行っており、入院直後からケアマネージャーから在宅生活での状況を確認し、退院後を見据えた入院治療を積極的に行っています。退院時共同指導料は年195件の算定があり、退院後の療養生活に向けた移行をスムーズに行うための、情報共有やカンファレンスは日常的に実施しています。8536名の退院患者の中で、605名は介護施設などへ入所していますが、入院当初より退院調整看護師や社会福祉士が支援し、病態に合わせた療養先の相談に乗っています。

(3) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	10,628㎡	/	所有・借地
仮契約済	㎡		所有・借地
取得予定	㎡		所有・借地
計	10,628㎡		

(4) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他（ ）
概要	鉄骨造2階建て地下なし 建築面積（3,629㎡）延床面積（6,438.58㎡）

(5) 医療従事者（※確保予定の人員には、増員となる人数を記載してください。）

職種	現在の人員（人）	確保予定の人員（人）
----	----------	------------

病院整備計画申出者（法人名）

	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師				8	86	24.4
看護師				48	35	24.3
准看護師				2	12	7.7
看護補助者				3	3	2.0
薬剤師				3	1	0.8
放射線技師				12	0	0
臨床検査技師				11	6	4.9
理学療法士				10	0	0
言語聴覚士				2	0	0
作業療法士				6	0	0
事務				28	69	46.0
その他				14	2	1.5
計				147	190	111.6

確保状況・確保策、確保スケジュール

ふれあい生協病院は新規開設ですが、埼玉協同病院のリニューアルを含めた「2つの病院」に必要な人員体制の確保を、埼玉協同病院・法人において経年的に進めてきました。

【医師】

2017年度から3年間の初期研修医の採用は、定数7名の連続フルマッチをしました。そこで、2020年度から定数を8名に増員したうえでフルマッチとなり2022年度も8名の入職となっています。後期研修医や専攻医の入職も毎年3～5名、既卒医師も年間3～5名の採用実績があります。2022年度嘱託常勤を含む常勤医師数(98人)、非常勤の常勤換算(43.8人)に対して2023年度8月の新病院建設以後は、外来診察エリアをユニバーサル外来として集約化するなどにより診療体制を整備する事としており、現有体制で対応できると考えています。

【看護師】

2019年時点では常勤看護師230人と非常勤看護師56.0人合わせて286人でした。退職もありますが、毎年40名の新卒看護師、平均10名程度の既卒看護師が入職しています。2022年度には常勤看護師260人、非常勤の常勤換算63.6の計323.6人となっています。2023年度8月には、2つの病院で常勤看護師305人、非常勤の常勤換算67.5の計372.5人を予定しています。

【その他の職種】

当法人は医系学生の奨学生制度をもっており（医師、薬剤師、看護師、セラピスト、介護職等）学生時代の経済的支援をして、卒業後当院職員として働くことが計画でき、採用見通しがもてます。今後5～6年先まで複数職種の奨学生がいます。

加えて毎年病院実習者、学校のつながりから多くの応募者があります。計画的な採用で確保は可能と考えます。現有体制でほぼ開院予定数となっています。

病院整備計画申出者（法人名）

(5) スケジュール

No.	項 目	計画年月	備 考
1	基本計画	2016年4月～2019年6月(26か月)	
2	基本設計	2020年6月～2021年5月(11か月)	
3	実施設計	2021年3月～2021年12月(8か月)	
4	開発許可等都市計画法上の手続完了	2021年10月	
5	農地転用等農地法上の手続完了	2021年10月	
6	建築確認許可	2021年12月	
7	建築請負契約の締結	2021年12月	
8	開設（変更）許可（医療法）	2021年10月	
9	建築（着工～竣工）	2021年12月～2023年6月	
10	医療従業者の確保	2023年4月	随時
11	使用許可（医療法）	2023年6月	
12	開設（増床）	2023年8月	